

政治学研究科

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

政治学研究科は、本学の歴史を象徴する法学部を主要基盤としてその上に立つ教育研究組織であり、それにふさわしい成果を上げてきており、現在も、将来も、それが期待される。そうした組織内共有認識の下にすでにほぼ完備した制度を備える組織であると言える。具体的には、研究科とその中の二つの専攻に関する諸制度や教員情報はすべて公開されている。また、大学評価のすべての観点に照らし、教員個々の取り組みと専攻・研究科という組織的取り組みとが調和している。たとえば、グローバル化、研究分野の高度化、社会貢献・社会連携の各観点から見事な成果を持続的に上げていると評価できる。上記I～Vの評価記述との重複を避けるが、「2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況」という点ではほぼ適切に対応しており、残された課題の解決も遠からず達成されることが期待される。

「教育課程・学習成果の評価」「教員・教員組織の評価」という両観点においても適切であると評価できる。

「2019年度目標の達成状況」の観点では、これまたほぼ適切であると評価できる。その上で、学生の受け入れと学生指導の2点については、さらなる改善策の策定が期待される。また、他大学の大学院で競合的関係にある研究科との差別化についても、なお改善の余地が残されているとの認識が示されており、今後の対応策が期待される。

「認証評価結果における指摘事項への対応状況」は、適切なものであると評価できる。

「2020年度中期目標・年度目標・達成指標」は、残された課題への対応を定めたものとして前年度の自己点検・評価報告書の内容と整合しており、適切である。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学院教育の最大目標である学位論文の着実な感性と質の向上を目指して、大学院修士課程、博士課程のすべての在籍者を対象に、論文構想発表会を7月と12月の2回開催している。構想発表の準備過程で、指導教員は自らが指導する大学院生の研究の進捗状況を把握し、大学院生にとっても定期的な構想発表が研究発展の強い動機付けとなっている。また同発表会には、専攻所属の隣接分野の研究者である専任教員が出席して、広い視野から研究指導を行うとともに、教育課程の学習成果等を把握する機会のひとつにもなっている。そこで得られた知見等は、専攻会議、政治学研究科会議における教育課程のさらなる改善に向けた検討につながられてきていると認識している。

また、一昨年度博士後期課程に導入したコースワークおよび授業科目の単位制は、博士課程の院生に対して継続的に指導を行ううえで効果的である。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

政治学研究科について、2020年度の評価結果総評では、おおよその部分において適切との評価が下されており、大きな改善が必要とされるものはなかった。そのことは、政治学研究科が本学大学院の中では完成された研究科であることの証左といえる。そのような中でも、いくつかの改善策が求められた項目がある。学生の受け入れと指導の改善策の要求についてであるが、後者については年2回の論文構想発表会開催による学生への動機付け、幅広い分野での指導体制、それらを教育課程の改善プロセスへ内部化するなど、適切な仕組みで対応できているといえる。これは高く評価できる。さらに、博士後期課程に導入されたコースワークや単位制の取り組みも恒久的な仕組みとして機能しているようであり、博士後期課程においても引き続き組織的な指導で高い水準の研究教育が期待される。前者については、改善途中の印象を持つが、進学相談会などを通じた積極的な広報と情報発信がなされていて、定員充足は改善してきている。国際政治学専攻では中国語や英語のサイトを2021年度は充実させる考えであることがインタビューを通じて確認できたため、こうした取り組みの継続が期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成してい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

るか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>政治学の研究者にとっては、政治学全般に関する間口を広く持つことと、自分の専門分野に関する奥行きを深めることの両面が求められる。特に修士課程においては、専門的な研究分野に限定されない、幅広い学習を進め、政治学の体系を俯瞰する視座を身に着けることが教育の重要な目的となる。</p> <p>このような理解にたって、教育課程の編成・実施方針も念頭に置きながら、政治学専攻および国際政治学専攻では、コースワークとして幅広い科目を提供している。同時に、修士論文を着実に作成するために、指導教員が大学院生の研究テーマを踏まえて、リサーチワークに役立つと思われる履修科目の中で具体的で実践的な助言を行っている。英語の実践的能力強化を目指している国際政治学専攻では、英語コースワーク科目（3分野で初級・上級科目を設置）を配置している。</p> <p>さらに、論文指導に関しては、研究構想発表会、論文ドラフト発表会、進捗報告会における指導教員および隣接分野の研究者による集団指導と院生相互のディスカッションによって適切に行われている。大学院生たちも、この論文作成が大学院生活の根幹であることを十分に自覚している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <p>・2021年度大学院履修案内 159 ページ。</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>博士課程においては院生自身の専門領域におけるリサーチワーク（博士論文作成）が中心となり、指導教員の論文指導が最も重要な役割をはたす。そのため、指導教員による個別指導にもとづいた科目を設定し、そのほか必要に応じて研究分野に関わる教員の授業科目を履修するよう指導してきた。一昨年度からは、リサーチワークとバランスのとれた適切な科目履修が行われるようにするため、論文指導科目（修了所要単位：12単位）と選択必修科目（同：4単位）からなる授業科目を新設し、コースワークおよび授業科目の単位制を導入した。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <p>政治学、国際政治学両専攻ともに、学会でも指導的な役割を果たしている教員によって、時代の要請に応じた最先端の研究や調査に基づいた教育科目が開設されており、各専攻専門分野の高度化に相応した教育内容が提供されている。</p>	
<p>【博士】</p> <p>時代の要請に応じた最先端の研究や調査に基づいた教育科目が開設されており、専門分野の高度化に相応した教育内容が提供されている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※大学院教育のグローバル化推進のためにしている取り組みの概要を記入。	
【修士】 政治学、国際政治学両専攻とも外国人入試制度を実施し、留学生の受け入れを積極的に進めている。また、国際政治学専攻では「グローバル政治経済特別セミナー」という科目を開設し、外国人研究者による最新の研究を踏まえた集中講義を開講することにより、大学院生がグローバルな水準の研究に触れる機会を提供している。	
【博士】 選択必修科目として「国際政治特別講義 1」および「国際政治特別講義 2」を設置し、高度かつ先進的水準にある国際政治学を履修できる。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※履修指導の体制及び方法を記入。	
【修士】 指導教員および研究科の専任教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応した科目履修の指導を行っている。 各科目の担当教員は、履修者のなかに留学生と日本人学生が混在する場合には、日本語および英語の能力に留意しながら授業で精読する文献や授業速度を適切に調整し、履修指導を行っている	
【博士】 指導教員および学科の専任教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、きめ細かく科目履修の指導を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。	
【修士】 政治学専攻、国際政治学専攻ともに、「修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」と題する文書を新入生オリエンテーション時に院生に配布し、各専攻主任が詳細に説明している。また、同文書は事務窓口に備え付けられ、さらに学生がつねに参照できるよう大学院ホームページ上でも公開されている。そのうえで、個別教員から上記の文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導している。	
【博士】 「政治学専攻における博士号学位請求の審査日程とプロセス」と題する文書を作成し、大学院ホームページ上でも公開している。同文書に示された日程を念頭に置きながら研究活動を実施するよう指導教員が指導を行っている。	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。	
・政治学専攻、国際政治学専攻ホームページ「研究指導計画」に公表されている「政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・「国際政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」 ・「政治学専攻における博士号学位請求の審査日程とプロセスについて」 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <p>政治学、国際政治学専攻とも、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の計画を立てている。また、毎年度2回（通常は7月及び12月）の論文構想発表会においては隣接領域を含む専任教員が院生に対し組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。</p> <p>1回目の論文構想発表会では、専任教員陣が多角的に院生各自の研究構想について論評している。2回目の論文構想発表会では、院生が用意した論文骨子を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントを加えている。また、修士課程1年生にも論文構想発表会への出席をもとめ、次年度に取り組みべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役だてている。</p> <p>年に2度の論文構想発表会を開催することによって、研究活動のペースやスケジュールを院生に強く意識させることができ、大学院における研究生生活の規律を確保することができている。また、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。</p> <p>【博士】</p> <p>博士課程の院生は研究者としてのキャリアの初期段階にあることを踏まえ、学位論文を提出する前に毎年度2回の論文構想発表を義務づけることにより、院生が最先端の研究水準に達し、独自の知見を新たに加えていることを確認している。また自立した研究者としての力量を身につけることができるよう、指導教員は個々の院生の能力や研究の進捗状況を見極めながら、研究・学位論文指導を行っている。</p> <p>2度の論文構想発表会を開催することによって、研究活動のペースやスケジュールを院生に強く意識させるばかりでなく、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果もあげている</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「政治学研究科ディプロマ・ポリシー」 ・「政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」 ・「国際政治学専攻における修士号学位請求の審査日程及びプロセスについて」 ・「政治学専攻における博士号学位請求の審査日程とプロセスについて」 	
④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>少人数のゼミは安全確保に留意して、対面で行うものもある。</p> <p>オンラインによる講義、ゼミも展開している。オンラインの場合も、教育効果は下がっていないと思われる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>【修士】</p> <p>各科目の成績評価と単位認定は各教員に任されているが、受講者の到達度いかんによってはBやCというきびしい評価も下される。2019年度に導入された11段階評価制度によって従来よりもさらに厳密に院生の成績を評価できるようになっており、成績評価は適切に行われている。</p> <p>成績評価と単位認定の適切性に異議が呈せられるような事態が生じた場合には、各専攻会議および研究科会議で審議される。</p> <p>【博士】</p> <p>各科目の成績評価と単位認定は各教員に任されているが、受講者の到達度いかんによってはBやCというきびしい評価も下される。2019年度に導入された11段階評価制度によって従来よりもさらに厳密に院生の成績を評価できるよう</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>になっており、成績評価は適切に行われている。</p> <p>成績評価と単位認定の適切性に異議が呈せられるような事態が生じた場合には、各専攻会議および研究科会議で審議される。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p>【修士】</p> <p>政治学専攻、国際政治学専攻ともに、「政治学研究科学位基準」と題する文書（その第二が「修士論文の審査基準」）を新入生オリエンテーション時に院生に配布し、各専攻主任が詳細に説明している。また、同文書は学生がつねに参照できるよう大学院ホームページ上でも公開されている。各指導教員も上記の文書に示された日程もとに、研究計画を設定するよう指導している。</p> <p>両専攻とも、学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、毎年度2回開催している論文構想発表会における指導によって論文審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。</p> <p>【博士】</p> <p>「政治学研究科学位基準」と題する文書（その第一が「博士論文の審査基準」）を作成し、指導教員も同文書に示された日程に即して博士論文を執筆するよう研究計画をたて、これを実施するよう指導している。「政治学研究科学位基準」は、大学院ホームページ上でも公開されている。</p> <p>学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行い、各年度2回開催している論文構想発表会における指導によって論文審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・政治学専攻、国際政治学専攻ホームページの「学位論文審査基準」に公表されている「法政大学大学院政治学研究科学位基準」</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>大学院事務課と連携して学位授与状況のデータを取得し、政治学研究科教授会で報告を行い、教員陣が把握できるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <p>学位の水準は、学位論文に関する厳格な審査体制とスケジュールの確保により、適切に保たれている。学位論文の審査には、全専任教員が加わり、学位論文の水準を担保している。</p> <p>【博士】</p> <p>学位の水準は、学位論文に関する厳格な審査体制とスケジュールの確保により、適切に保たれている。学位論文の審査には、主査1名、副査2名からなる小委員会での極めて専門性の高い審査を経て、最終的には全専任教員による審査投票を実施することで学位論文の水準を担保している</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
【修士】	
政治学専攻では修士論文、国際政治学専攻では修士論文もしくはリサーチペーパーを、あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査となって審査を行っている。	
学位請求論文もしくはリサーチペーパーの査読と口述試験の結果に基づいて、各専攻において全専任教員による審議を行って学位の授与を決定している。	
【博士】	
学位規則のとおり。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
修士号取得者の進路については、修了時の調査によりほぼすべて把握している。しかし、外国人留学生については、修了時に未定、またはその後の照会に応じないという場合もある。	
博士号取得者の進路については、就職がやや厳しい状況にはあるものの、教員が学位取得者と継続的に連絡を取り合うなどして就職状況の把握に努めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
【修士】	
政治学、国際政治学両専攻とも、学位授与方針で示している論文の審査基準（先行研究の批判的検討の十分さ、分析方法と論理展開の適切さ、主張されている知見の独創性）を満たすのに必要な専門知識の習得を、学習成果を測定する重要な指標として適切に設定している。	
また 2019 年度からは、従来の 5 段階評価制度から 11 段階評価に変更することによって、コースワークにおける学習成果もより厳密に評価できるようにした。	
【博士】	
学位授与方針で示している論文の審査基準（先行研究の批判的検討の十分さ、分析方法と論考の適切さ、主張されている知見の独創性）を満たすのに必要な専門知識の習得を、学習成果を測定する重要な指標として適切に設定している。	
また 2019 年度には博士課程にもコースワーク制を導入し、博士課程のコースワークにも 11 段階評価を適用し、学位論文の審査だけでなく、コースワークにおける学習成果も厳密に評価している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。

【修士】

個別授業で受講者が行う研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数のものが多く、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、随時助言、フィードバックを行っている。これに加えて、2回にわたる学位論文構想発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価するうえで重要な役割をはたしている。

【博士】

個別授業で受講者が行う研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。これに加えて、指導教授が指導担当する院生にリサーチワーク、すなわち論文作成の進捗状況を定期的に確認することで学習成果を把握するよう努めている。さらに、2回にわたる学位論文構想発表会での研究発表は、学習成果を研究科のすべての教員が把握し、院生らの到達度を評価するうえで重要な役割をはたしている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

【修士】

月2回のペースで政治学、国際政治学各専攻会議、ならびに政治学研究科会議を開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について各専攻会議で詳細な検討を行い、研究科会議で審議を行っている。

【博士】

月2回のペースで政治学専攻会議、ならびに政治学研究科会議を開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について専攻会議で詳細な検討を行い、研究科会議で審議を行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

各専攻会議および研究科会議等において、院生による授業改善アンケートの結果を所属教員に回覧して、その周知をはかっている。同アンケート結果をうけて組織的な対応を必要とするような指摘内容については、各専攻および研究科で必要な対応を審議し、授業の内容や進め方等の改善に役立てている。

アンケートを実施していない少人数の授業においては、日常的に院生による授業に対する要望の提起と教員による改善の試みの往復が存在する。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・修士課程では、全専任教員が参加する毎年度2度の論文構想発表会を設け、初回で各々の大学院生の研究構想に対してその方向性に関する多面的な批評を行うとともに、第2回で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。</p> <p>博士課程においては各自のリサーチワーク（研究論文作成）が中心となり、指導教員の個別指導等が最も重要な役割をはたす。そのため、指導教員による個別指導にもとづいた科目を設定し、そのほか必要に応じて研究分野に関わる教員の授業科目を履修するよう指導してきた。さらに、2019年度から、論文指導科目（修了所要単位：12単位）と選択必修科目（同：4単位）からなる授業科目が新設され、コースワークおよび授業科目の単位制が導入された。これらは博士課程の院生に対し、論文完成のための継続的努力を促す契機として作用している。</p>	1.2③ 及び1.1③

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

政治学研究科では、2020年度の評価にも記述されているとおり、教育課程やその内容について既に完成された制度となっており、また漸進的な改善プロセスも内部に組み込まれており、これが持続的に機能している。したがって、大きな改善が必要だと思われる点は見当たらない。今後も、研究や他大との競争環境の変化にあわせて漸進的に改変していくプロセスが継続的に機能していくよう期待している。修士と博士課程ともに、質の高い論文作成に結びつくようにコースワークとリサーチワークとが適切に組み合わせられ、複数の教員と他の大学院生を交えてディスカッションをする場もある。こうした体制ができあがっていることは高く評価できる。さらに学会などでの先進的な研究が指導の中に生かされている。グローバル化の面では、外国人研究者による講義もあり、語学力にあわせて日本人と留学生が一緒になっている授業の中でも適切な指導がなされている。研究指導も学位論文指導も年2回の論文構想発表会が軸となって、体系的におこなわれていることはとりわけ高く評価できる。講義や学位論文の成績評価についても同様である。また、これらの基準についても政治学研究科会議を通じて、教員同士でその都度共有されて改善も含めた検討体制も機能している。いずれの点においても政治学研究科は組織的に対応する仕組みが整えられており、今後もこれらが継続的に機能していくことが期待される。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。 政治学、国際政治学の各専攻会議において、授業で導入している工夫について定期的に意見交換を行っている。 教員の資質向上が教育の改善をはかる有効な手段の一つであることを踏まえ、両専攻の専任教員を構成員とする「政	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>治学コロキウム」を定期的で開催している。また、同コロキウムには院生の参加も認め、通常の授業よりもさらに先端的で高水準な知見に触れる機会を提供している。</p> <p>政治学研究科長が自己点検委員会や大学評価室セミナー等に出席し、その内容を政治学研究科会議で報告し、専任教員陣と共有している。</p> <p>両専攻の専任教員には学内紀要『法學志林』への定期的な寄稿が義務づけられている。</p> <p>両専攻の専任教員には、学内のルールに基づいた、国内外への研修・研究の機会も保障されており、それらの機会を利用して広い視野から専門領域に関する知見を得ることができる。</p>	
<p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。</p> <p>・日 時：2020年10月5日（月） 15:30～18:00</p> <p>場 所：オンライン（Zoom）開催</p> <p>論 題：個人主義化するプーチン体制と支持層の変化</p> <p>発表者：溝口 修平</p> <p>参加者 15名</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>政治学、国際政治学両専攻の専任教員を構成員とする「政治学コロキウム」を定期的で開催し、教員による先端的な研究成果を披露して、異なる専門分野を有する教員同士が議論する機会を設けている。</p> <p>これまでは、同コロキウム後に開催される教員懇談会で、さらに専門分野をこえた闊達な議論と意見交換が行われてきた。ただし、昨年度はオンライン開催のため、懇談の機会を設けることはできなかった。</p> <p>ボアソナード記念現代法研究所において各種研究プロジェクトを組織することを通じて、専攻や学部、さらには大学をこえた共同研究を実施したり、科学研究費プロジェクトに関わる相互協力を行ったりして研究活動の活性化に努めている。</p> <p>沖縄文化研究所の運営やシンポジウムといった各種プロジェクトに参画することを通じて、専攻や学部、さらには大学をこえた共同研究に関わり、研究活動の活性化に努めている。</p> <p>また、教員の多くは、専門的な研究成果に加え、雑誌、新聞等の寄稿などを通して、研究成果の社会還元にも積極的に取り組んでいる。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし、</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>研究科会議とコロキウムをオンライン開催に切り替えた。オンラインでも活発な議論を確保するよう努めている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
<p>・各専攻会議において、授業での工夫につき定期的な意見交換を行っている。</p> <p>両専攻の専任教員を構成員とする「政治学コロキウム」を定期的で開催しており、同コロキウムは2020年度も複数回の開催が予定されている。</p> <p>同コロキウムには院生の参加も認め、先端的で高水準な知見に触れる機会を提供している。</p> <p>研究科長が自己点検委員会等の内容を研究科会議で報告し、専任教員陣と共有している。</p> <p>両専攻の専任教員には『法學志林』への定期的な寄稿が義務づけられている。</p> <p>両専攻の専任教員には、学内のルールに基づいた国内外への研修・研究の機会も保障されており、広い視野から専門領域に関する知見を得ることができる。</p> <p>ボアソナード記念現代法研究所や沖縄文化研究所を通じて、専攻や学部、さらには大学をこえたプロジェクトに参画し、研究活動の活性化に努めている。</p> <p>学内諸機関と連携した公開講演会の可能性を探求中である。</p>	2.1①および2.1②

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

政治学研究科では、2020年度の評価でも問題点の指摘がなかったように、教員や教員組織は、改善プロセスも含めて、既に完成された仕組みとなっている。とりわけ、各専攻会議は、教員間で教育改善の情報共有の場として適切に機能しており、また、研究面でも「政治学コロキウム」を開催し、研究面でのモチベーションが大学院生にまで及ぶ仕組みもある。2020年度は新型コロナウイルス拡大防止のために、対面での活動が制約される中でも、こうした活動が継続されたことは高く評価できる。引き続き今年度も新型コロナウイルス拡大防止のため、対面での活動が制約されているが、オンラインによる「政治学コロキウム」を3、4回開催予定であり、適切に活用されていると評価できる。ボアソナード記念現代法研究所や沖縄文化研究所の本学の研究組織と連携する体制も整えられている。今後もこれら研究組織と積極的な研究活動を実施していくことで、大学院生の研究活動に対してポジティブな影響を与えられるはずであるので、活発な研究体制の維持も期待される。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
特になし
【根拠資料】
・特になし

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

政治学研究科では、院生に対する個別指導は、少人数のため、基本的に対面で実施し、状況に応じてオンラインを併用して綿密に進めている。また、発表会についてもオンライン対応などの工夫を行ったが、その他の COVID-19 への対応・対策についてはインタビューを通じても確認することはできなかった。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	二専攻体制に関する検証結果を踏まえた対応策の実施	
	年度目標	二専攻体制維持しつつ、定員削減に踏み切った国際政治学専攻の定員充足率および政治学専攻の定員充足率をさらに向上させる	
	達成指標	①入学試験受験者数②入学者数③進学相談会来場者数（参考）	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	①入学試験出願者数が 2019 年度の 40 人（政治学専攻 8 人、国際政治学専攻 32 人）から 2020 年度の 50 人（政治学専攻 11 人、国際政治学専攻 39 人）に増加、②入学者が 2019 年度の 8 人から 13 人に増加、③進学相談会参加者は 2019 年の 11 人から 4 人に減少したが、参加した 4 人のうち 3 人が入学試験に出願した。
		改善策	進学相談会の参加者数の減少は出願者の減少にはつながらなかったが、進学相談会の参加者数がさらに増えるよう、広報活動に一層努力する。
質保証委員会による点検・評価			
所見	政治学専攻は、オンラインによる相談という制約があったものの、小部屋機能を用いて個別の相談に応じるなど、キメ細かい対応によって効果的に出願へつなげた。 国際政治学専攻も、オンライン形式での相談会を迅速に実施、成功させたことで高く評価できる。		
改善のための提言	かつてホームページやパンフレットを用いた広報活動による国内外学生の応募態勢が必ずしも奏功しなかった要因を探り、効果的な広報活動を展開する必要がある。広報活動を充実させるために、海外からの応募が多い国際政治学専攻のホームページを複数の言語で作成することも考えられる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	博士後期課程コースワークの検討	
	年度目標	①2019 年度に導入した博士後期課程コースワークの着実な履行②「ディプロマポリシー」と「学位請求の審査過程及びアプローチ」の着実な履行	
	達成指標	論文構想発表会の実施と修了者数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		①2019 年度に導入した博士後期課程コースワーク制度が適用される最初の大学院生が 2021 年 4 月に博士後期課程に進学するので、コースワーク制度を始動させる準備を整えた。 ②「ディプロマポリシー」と「学位請求の審査過程及びアプローチ」も着実に履行されている。 ③2020 年度は 5 回の論文構想発表会等を実施し、9 月に 1 名が修士課程を修了し、3 月には 3 名が修士課程を修了する。このうち 1 名は 2021 年度に当研究科博士課程に進学する。	
改善策	特になし		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	質保証委員会による点検・評価		
	所見	中間報告会（論文構想発表会）の実施など、ディプロマ・ポリシーと「学位請求の審査過程及びアプローチ」の着実な履行により修士課程院生の研究意欲を喚起し、コンスタントに修了へ導き、さらに、修了生のなかから博士課程進学者を生み出したことは高く評価できる。	
	改善のための提言	修士論文提出を予定していながら、新型コロナ禍の影響で研究資料の収集や聴き取り調査がままならなかったなどの理由から、論文構想発表および論文提出を断念し退学した院生も存在したことから、しばらくコロナ禍の収束が難しいと考えるならば、あらためてカリキュラム・ポリシーにうたわれているような指導教員による研究指導と構想発表会における教員陣の指導を手厚くする必要があるだろう。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学内の政策系の研究科等との連携・調整強化	
	年度目標	学内の他研究科との交流の場の設定	
	達成指標	学内の他研究科との共同研究会等の開催実績	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	①研究科教授会に公共政策研究科の教員にも参加していただき、研究・教育両分野における公共政策研究科との連携を緊密に行った。②政治学研究科の教員がキャリアデザイン学研究科の教員と共同研究会を3回開催。
		改善策	特になし
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	①近接する分野の研究科と緊密な連携の機会を恒常的に維持していることは高く評価できる。 ②新規の連携・交流として評価できる。 ③分野横断的な教員の交流は大学院生にも刺激となることから評価できる。
	改善のための提言	次年度は学部の政治学科および大学院の公共政策研究科に教員1名が着任するので、いっそう活発かつ緊密な連携が行われることを期待する。 国際政治学専攻においても次年度若手教員が1名着任するので連携規模の拡大を期待したい。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	学内外の類似する他研究科との差別化	
	年度目標	①政治学研究科の独自性についての検討を継続する ②国際政治学専攻入試におけるオンライン面接の導入等による外国人留学生の積極的受け入れ	
	達成指標	①政治学研究科の差別化に関する審議を実施 ②国際政治学専攻に相応しい多様な学生の受け入れ、専攻ウェブサイトにおける多言語による情報発信	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	①2020年度の修士課程入試の面接はすべてオンラインで行った。国際政治学専攻については2021年以降も大学院入試の面接はオンラインで行うことの検討を開始。 ②国際政治学専攻のウェブサイトの一部を中国語でも表記。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		③学内外の類似する研究科との差別化について、政治学専攻、国際政治学専攻それぞれについて検討した。	
	改善策	政治学専攻については、博士後期課程にコースワークを導入したこととの関係をひとつの軸にして、他研究科との差別化に関する検討を継続。国際政治学専攻については、従来以上に多様な背景を持つ学生が出願するよう入試のあり方の検討を開始。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	学内外における類似の研究科との差別化を、政治学専攻・国際政治学専攻それぞれについて、継続的に検討したことは評価できる。一部であっても国際政治学専攻のウェブサイトにて中国語の表記を追加したことは評価できる	
	改善のための提言	2019年度から導入された博士後期課程コースワーク制度に、次年度は同制度が適用される最初の院生が入学するので、その運用から得られる教訓を蓄積しながら、他研究科との差別化を研究科会議において適宜に議題とし、審議することが望まれる。	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	年度末報告	中期目標	年齢構成のバランスを是正
		年度目標	学部と連携しつつ、引き続き人事における年齢構成の適切化をはかる
		達成指標	今後数年間における定年教員充足に関する計画の策定
	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	A	
	理由	2020年度末に退職される2名の教員にかわって、2021年4月に30代の教員1人と40代の教員1人が着任するため、年齢構成のバランスの是正が大きく進む。	
	改善策	若手教員の積極的な採用を今後も継続。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	退職にともなう人事において、教員の選考・採用を迅速に行ない得た、しかも、重要課題である年齢構成のバランスの是正を大きく進めるかたちで行ない得たことは評価できる。	
	改善のための提言	政治学専攻におかれては、種々のバランスに配慮した人事を継続しつつ、10年以内には多くの教員の退職時期が訪れるという問題の重要性を構成員が十分に認識していくことを要望する。 国際政治学専攻においては引き続き、年齢と研究業績など総合的な知見に基づく教員の採用を行っていくことが望ましい。	
No	評価基準	学生支援	
6	年度末報告	中期目標	執行部による学生との面談を図る
		年度目標	院生との定期的な面談の実施、院生のTAやRA等としての雇用促進
		達成指標	院生との面談の実施、院生のTA、RA等としての雇用実績
	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	A	
	理由	①各専攻の主任がZoomを使ってオンラインで院生と複数回の面談を実施した。 ②博士課程の院生1人をTAとして雇用した。 ③大学院生を「特色ある教育研究プログラム」に参加させ、教員との共同研究を体験させた。	
	改善策	院生のTA、RAとしての雇用実績の向上。	
	質保証委員会による点検・評価		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	所見	①新型コロナ禍という状況でも、各専攻主任が院生との面談を複数回確保したことは評価できる。 ②ここ数年、博士課程院生を毎年度 TA として雇用していることは評価できる。 ③今年度から新たに導入されたプログラムであったにもかかわらず、上手く活用して院生に教員との共同研究を経験させ得たことは高く評価できる。	
	改善のための提言	次年度も新型コロナ禍により経済的に苦しい立場におかれる院生も生じることが予想されるので、そうした院生の TA、RA としての雇用を確保・充実させることが強く望まれる。大学院生がより詳細に TA、RA の職務の内容を把握する必要がある。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
	中期目標	公開講演会等の実施を検討する	
	年度目標	学内の他の研究科や研究所等と連携しつつ、公開講演会の可能性を探る	
	達成指標	公開講演会等に関する研究科会議での検討および開催実績	
7	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	2021年1月24日に政治学研究科の教員とキャリアデザイン学研究科の教員が協力して公開セミナーをZoomを使ってオンラインで開催した（参加者73人）。
		改善策	2021年度以降も他研究科の教員と協力して公開セミナーを開催することを検討。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	政治学研究科とキャリアデザイン学研究科の教員が協力し、さらに学外の有識者、実務経験者も参加する公開セミナーを実現し、多くの参加者を得たことは評価できる。
		改善のための提言	次年度以降も、他研究科の教員、学外の有識者、実務経験者らと協力・連携した公開セミナーやシンポジウム等を開催していくことが望まれる。 公開セミナーやシンポジウムを開催するに際してはより積極的な広報がなされることが望まれる。
【重点目標】 2019年度に導入した博士後期課程コースワークの着実な履行、および「ディプロマポリシー」と「学位請求の審査過程及びアプローチ」の着実な履行を重点目標とする。			
【目標を達成するための施策等】 左記重点目標達成のための施策としては、在籍者および新規入学者にコースや制度の内容と意義を周知させ、履修者数および履修単位数ならびに修了者数の確保をはかることとする。			
【年度目標達成状況総括】 2020年度の重点目標とした博士後期課程コースワークの着実な履行、およびディプロマポリシーと学位請求の審査過程及びアプローチについては、着実に履行することができた。他の目標についても、概ね目標を達成することができ、多くの点について、質の向上が見られた。また、目標達成の手段との関係では、教育・研究だけでなく入学試験、各種説明会等においても、オンラインの方法を用いた企画や取り組みの経験値が増した。			

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

政治学研究科では、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、対面での教育や大学院生の研究活動が大幅に制限される中でも、オンラインツールを活用することで、掲げられている目標の達成のために研究科全体で努力と工夫がなされたことは高く評価できる。zoomのオンライン会議システムを使って、セミナーや大学院生との面談、進学相談会が実施できたことは、目標に対する大変前向きな活動といえる。また、2020年度は入学者数が改善している点も、適切な情報発信や広報が機能したと考えられる。この点について、入学者への聞き取り調査をするなどして、分析し

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

た上で、効果的に広報や進学相談会での情報提供につなげ、改善策が次の年度目標に継承される形であげられると一層良
いだろう。また、広報や情報発信においてもグローバル化への対応のために、本研究科に関心のある海外の学生が
websiteで情報を得られるよう取り組むことが重要であると認識し、国際政治学専攻では中国語や英語のサイトを2021
年度は充実させる考えであることがインタビューを通じて確認できた。その成果に期待したい。さらに、他研究科の教員
間の連携強化によって教育課程にポジティブな影響を加えようと活動が出来た点は高く評価できる。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	二専攻体制に関する検証結果を踏まえた対応策の実施
	年度目標	両専攻の教育の有機的連携
	達成指標	論文構想発表会、コロキウム等による研究科全体としての教育の推進
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
2	中期目標	博士後期課程コースワークの検討
	年度目標	博士後期課程の指導の充実
	達成指標	博士論文完成に向けた行程の管理
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】
3	中期目標	学内の政策系の研究科等との連携・調整強化
	年度目標	政策系の研究科の院生を受け入れた授業の展開
	達成指標	政治学研究科の教員と公共政策研究科の教員による情報共有と教育面での連携
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	学内外の類似する他研究科との差別化
	年度目標	政治学研究科の所属教員の研究、教育能力のアピール
	達成指標	大学院に関する情報提供の強化
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	年齢構成のバランスを是正
	年度目標	年齢、ジェンダーに留意した教員の採用
	達成指標	定年退職者の補充人事の早期実現
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	執行部による学生との面談を図る
	年度目標	指導教員による研究面、生活面に関する個別指導の強化
	達成指標	院生に対する個別指導の強化
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	公開講演会等の実施を検討する
	年度目標	教員による研究成果の積極的な発信
	達成指標	研究業績データベースの迅速なアップデート
【重点目標】 博士後期課程の指導の充実 【目標を達成するための施策等】 博士課程院生に対する指導教員による綿密な指導と研究科教員による集団指導の強化		

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

政治学研究科において既に掲げられている中期目標に沿った形で各年度目標と達成指標は各項目ともおおむね適切に設定されている。ただし教育課程・学習成果の教育方法に関することにおいて 2020 年度の質保証委員会の改善のための提言がなされているが、このことを踏まえて、いずれかの項目で具体的な年度目標の設定となれば、より適切なものになるであろう。

V 2019 年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

No.	種別	内容
1	基準	基準 5 学生の受け入れ
	指摘区分	改善課題
	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科修士課程で 0.30、政治学研究科修士課程で 0.40 と低く、人文科学研究科博士後期課程では 2.23 と高いため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。
	大学評価時の状況	政治学研究科国際政治学専攻修士課程の定員を 25 人から 10 人に削減するとともに、志願者増加のためにウェブサイト等での広報活動に力を入れる方針を決定。
	大学評価後の改善状況・改善計画	2021 年度の修士課程入学者は、政治学専攻 8 名（対前年度比 2 名増）、国際政治学専攻 3 名（対前年度比 4 名減）、計 11 名で、定員充足率は 55%（対前年度比 10 ポイント減）であった。今年度も、本学法学部学生に対する情報提供、説明会の開催などで大学院生確保に努める。
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	入学者数の増加、定員充足率についての数値データは、第 1 回研究科長会議資料 No. 15 「2021 年度大学院入学定員充足率（修士課程）」に記載されている。

【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

政治学研究科は、学生の受け入れについて、改善課題として、定員の充足率を上げるよう求められていた定員削減を既に実施している。さらに website を通じた広報や進学相談会による丁寧な情報提供を実施してきている。2020 年度中の活動は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での活動の制約を受ける中でも、これらの改善活動が継続されたことは非常に適切であったといえる。引き続き website での広報・情報発信の拡充をしながら、進学を迷っている人たちに進学相談会への積極的な参加の呼びかけをおこない、進学不安を払拭できるような情報提供の継続が期待される。

【大学評価総評】

政治学研究科は、本学大学院の中でも長い歴史を有し、他大の類似の研究科や専攻課程と比較しても、研究教育組織として既に完成されていた研究科といえる。そのような研究科としても、適切に改善目標を掲げて、それを達成しようと努力している点は高く評価できる。今後もこうした取り組みの継続が期待されるが、今までの実績を見れば問題ないであろう。たとえば定員充足率について、改善の指摘を受けた点は、努力をすれば実現可能な範囲で改善のための方法が適切に設定され、それに向かって、情報発信や説明会などで大学院生の確保に向けた活動が出来ている。指導についても修士博士の両課程において、論文構想発表会を主軸にして複数教員や他の大学院生とディスカスする場があり、また他研究科とも連携して、大学院生の教育指導において学生が研究に対してモチベーションを高められる仕組みとなっている。また、外国人研究者による集中講義や留学生を積極的に受け入れ、グローバル化への対応も着実に進めている。一方で 2021 年度の目標において 2020 年度に質保証委員会による改善のための提言を踏まえて設定がされていないところが一部見受けられる。前年度の指摘事項については改善が望まれる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。